

議事録

第4回 彦根市地域スポーツ・文化クラブ活動整備推進協議会

日時：令和7年2月13日(木)15:30～16:45

場所：彦根市役所5階 5-1会議室

1 会長挨拶

- ・今年度、本協議会では、全体会以外に部会2回をもって、協議を深めることができた。
- ・全国的に見ると京都市、神戸市等で平日を含めた完全地域移行を行う自治体も出てきている。
- ・文科省では、地域移行から地域展開と呼称を変え、引き続き部活動改革を進める方針で協議を続けている。

2 報告事項

① 今年度の事業総括 等

【3つの実証事業（稲枝・水泳・剣道）における成果と課題】（資料あり）

- ・工夫していただきながら事業を進めていただいた。次年度も継続して取り組む予定。

【新規事業 ホッケーについて】

- ・実証事業を予定していたホッケーについて、R6年度当初は「拠点校方式」の形をとったが部員が増えなかったため、R7年度より「米原市の生徒も含めた地域クラブの創設。中体連登録も行い、大会出場を目指す」という意思を固められた。今年度予算も返上。次年度予算もなし。
中体連の大会に出場するかどうかは今後も基準となってくる。

【国、県、県内市町、全国の動き】

- ・2026年度から6年間を「改革実行期間」とする。今後は「地域移行」ではなく、「地域展開」と言葉を改めていく。
- ・①滋賀県②近江八幡市③栗東市（スライド4枚目）

【次年度予算と取組（対象事業団体も）】

- ・稲枝中学校、水泳、剣道、で予算増額。新規として「軟式野球教室」「陸上競技教室」を展開
- ・事務局を運営する人材の費用を次々年度以降確保していきたい
- ・実証事業に対する予算なので、ランニングコストとしてあてにはできない。
- ・南中はホッケー部を部活動の形として残している。（伊吹中と南中の合同チームもあり得る。クラブチームと部活動は切り離して考える。）
- ・今後、地域クラブと部活動の合同チームを考えていくべきでは（少数のスポーツは特に）
- ・中体連の秋の大会は全中とは繋がってはいないので、県として考えていくべき

②各部会からの報告

【スポーツ部会】

- ・生徒の休日活動の場をいかに保証していくかを軸に協議を重ねた。

- ・認可クラブの体制づくり（スポ少で中学部を考えているチームもある）
- ・彦根市を地区割してチームを作るという意見もあったが、「学校部活動はやめる」という大きな方針がなければ動かないのでは。

【学校調査部会】

- ・部活動改革に関する周知、兼職兼業の調査。（スライド資料あり）
- ・明確な改革の方向性を広く周知し、多方面からの協力を期待。

【文化部会】

- ・吹奏楽部の活動を保証する方向で協議
- ・施設、設備の面で調査。警備のセットも何とかかなりそうだが、稲枝の検証結果がどうなのか。中学校の部活動としてどうしていくのかを考えていくべきではないか。

3 協議事項

① 今後の方針について

- ・地域移行はすぐには難しい。できる競技から地域展開していくべき。教職員のアンケート結果からも地域移行・地域展開を進めていくべき。意欲のない教職員に教わることは、子ども達がかawaiiそう。平日は、移動のリスクを考えても学校での活動。土日はクラブチームで。子どもの居場所づくりの意味合いが強いので学校単位での大会参加はやめて、土日のクラブチームで競技力の向上や大会参加を目指す方向ではどうか。
- ・2～3校でブロック別地域として、数名の指導者でみていくのも良い。
- ・京都市、令和10年度より、土日の活動の完全停止。平日は希望する教員と外部指導者。
- ・どこをゴールに話し合うのか決めておく必要がある。（年度で区切れるのか。吹奏楽部は学校単位での参加）
- ・学校とクラブチームの合同チーム等も考えていかないと、子どもの活動場所がどんどんなくなる。
- ・協議会が事務局である。改革を進めていかなければならないという認識は共通している。
- ・競技によって、大会の参加方法等違うので、各競技の専門部からの意見も必要ではないか。
- ・プランニングの再構築について…本協議会としての考え
- ・令和8年度の対象事業団体等について
→令和8年度予算の取り方も令和7年度中に随所に求められ、審査される

4 事務連絡

- #### ① 令和7年度 彦根市地域スポーツ・文化クラブ活動整備推進協議会スケジュールについて
- 開催予定（全体会3回、部会2回、担当者会3回）
- ・担当者会（各競技の専門部等）等も考えていく
 - ・市民への周知も必要

5 副会長挨拶（多胡副会長）

- ・中学校の現場の声を知った。
- ・子どもがいないことから、企業も人材については危機感を持っている。